

(2018年度)

4 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は17ページ, 4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで, 問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に, 試験監督者から指示があったら, 解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し, 所定の欄に氏名を記入すること。次に, 解答用紙の右側のミシン目にそって, きれいに折り曲げてから, 受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し, 机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら, この問題冊子が, 上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は, HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能, 計算機能, 辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は, 解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで, そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき, マーク欄からはみ出したり, 白い部分を残したり, 文字や番号, ○や×をつけたりしてはならない。また, マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は, 消しゴムでていねいに消すこと。消しきらずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり, 破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

- 1 『六国史』を中心とする、古代の国史編纂事業に関する次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。但し、文章中には一部に括弧により字句を伏せた個所があるので、歴史的に正しい語句を補って読むこと。

奈良時代に入る前後から、日本でも国史編纂事業が活発となり、712年に『古事記』、720年に(A)が編まれたことはよく知られていよう。(A)の編纂に続いて、5編の「正史」が編纂されており、(A)から時代順に(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の6編を併せて『六国史』と称する。基本的に漢文・編年体で書かれており、巻数は少ないもので10巻、多いものは(G)の50巻とされる。その編纂時期は、奈良時代の初期に始まり、最後の(F)が編纂されたのは平安時代に入ってからとなる。

問1 各「国史」A～Fについて、歴史的にもっとも正しい名称をあとの語群1からそれぞれ1つずつ選びなさい。

- (1) Aについて
- (2) Bについて
- (3) Cについて
- (4) Dについて
- (5) Eについて
- (6) Fについて

〔語群1〕

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| ① 『日本文徳天皇実録』 | ② 『統本朝世紀』 | ③ 『扶桑略記』 |
| ④ 『神皇正統記』 | ⑤ 『日本書紀』 | ⑥ 『貞観御代政要』 |
| ⑦ 『五代拾遺愚草』 | ⑧ 『日本類聚本源』 | ⑨ 『日本三代実録』 |
| ⑩ 『日本公事根源』 | ⑪ 『日本紀略』 | ⑫ 『統日本後紀』 |
| ⑬ 『大日本史』 | ⑭ 『類聚国史』 | ⑮ 『醍醐天皇御紀』 |
| ⑯ 『統日本紀略』 | ⑰ 『統日本紀』 | ⑱ 『宇多天皇御記』 |
| ⑲ 『帝王五代記』 | ⑳ 『日本後紀』 | |

問2 各「国史」A～Fについて、それぞれの編纂に最も関係の深い人物をあとの語群2から1人ずつ選びなさい。

- (1) Aについて
- (2) Bについて
- (3) Cについて
- (4) Dについて
- (5) Eについて
- (6) Fについて

〔語群2〕

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| ① 藤原種継 | ② 藤原頼通 | ③ 早良親王 | ④ 藤原基経 |
| ⑤ 斎部広成 | ⑥ 藤原房前 | ⑦ 藤原永手 | ⑧ 吉備真備 |
| ⑨ 菅野真道 | ⑩ 清原夏野 | ⑪ 藤原顕光 | ⑫ 紀夏井 |
| ⑬ 橘逸勢 | ⑭ 藤原良房 | ⑮ 藤原行成 | ⑯ 紀貫之 |
| ⑰ 大伴旅人 | ⑱ 阿保親王 | ⑲ 藤原兼家 | ⑳ 阿倍仲麻呂 |
| ㉑ 源隆国 | ㉒ 藤原時平 | ㉓ 巨勢野足 | ㉔ 藤原利仁 |
| ㉕ 藤原元命 | ㉖ 藤原隆家 | ㉗ 舍人親王 | ㉘ 中臣鎌子 |
| ㉙ 藤原緒嗣 | ㉚ 藤原清河 | | |

問3 各「国史」B～Fについて、それぞれの成立年代はいつか。あとの語群3から1つずつ選びなさい。

- (1) Bについて
- (2) Cについて
- (3) Dについて
- (4) Eについて
- (5) Fについて

〔語群3〕

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 752 | ② 769 | ③ 773 | ④ 785 | ⑤ 797 | ⑥ 801 |
| ⑦ 815 | ⑧ 827 | ⑨ 833 | ⑩ 840 | ⑪ 848 | ⑫ 853 |
| ⑬ 859 | ⑭ 862 | ⑮ 869 | ⑯ 873 | ⑰ 879 | ⑱ 887 |
| ⑲ 888 | ⑳ 891 | ㉑ 901 | ㉒ 911 | ㉓ 923 | ㉔ 940 |
| ㉕ 958 | | | | | |

問4 各「国史」A～Fについて、それぞれの成立時の天皇は誰か。あとの語群4から1人ずつ選びなさい。

- (1) Aについて
- (2) Bについて
- (3) Cについて
- (4) Dについて
- (5) Eについて
- (6) Fについて

〔語群4〕

- | | | | | |
|------|------|------|-------|------|
| ① 平城 | ② 仁明 | ③ 花山 | ④ 堀河 | ⑤ 村上 |
| ⑥ 醍醐 | ⑦ 冷泉 | ⑧ 一条 | ⑨ 二条 | ⑩ 三条 |
| ⑪ 文徳 | ⑫ 聖武 | ⑬ 称徳 | ⑭ 清和 | ⑮ 宇多 |
| ⑯ 嵯峨 | ⑰ 陽成 | ⑱ 光孝 | ⑲ 桓武 | ⑳ 元正 |
| ㉑ 孝謙 | ㉒ 朱雀 | ㉓ 元明 | ㉔ 正親町 | ㉕ 光仁 |

問5 各「国史」B～Fについて、その内容が一代の天皇に限って著述してある2編を、あとの語群5から1つ選びなさい。

〔語群5〕

- ① BとC ② BとD ③ BとE ④ BとF ⑤ CとD
⑥ CとE ⑦ CとF ⑧ DとE ⑨ DとF ⑩ EとF

問6 前掲した文章中の(G)に該当する「国史」は、文章中のA～Fのうちどれか、あとの語群6から1つ選びなさい。

〔語群6〕

- ① A ② B ③ C ④ D ⑤ E ⑥ F

2 次のA～Eの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A モンゴルの侵入をうけて、都(ア)から江華島に避難していた高麗国王元宗が、1259年モンゴルに降伏すると、高麗の特別編成部隊であった三別抄が大規模な反乱を起こし、珍島や濟州島に転戦して頑強に抵抗した。1271年執権(イ)のもとに届いた高麗からの「牒」は、モンゴルに服属した高麗からではなく、実際は三別抄が援軍などを求めてきたものであった。

問1 空欄(ア)にあてはまるもっとも適切な都市の名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 開城 ② 平壤 ③ 慶州 ④ 金城 ⑤ 公州 ⑥ 漢城

問2 前問で正解となる都市が存在する地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

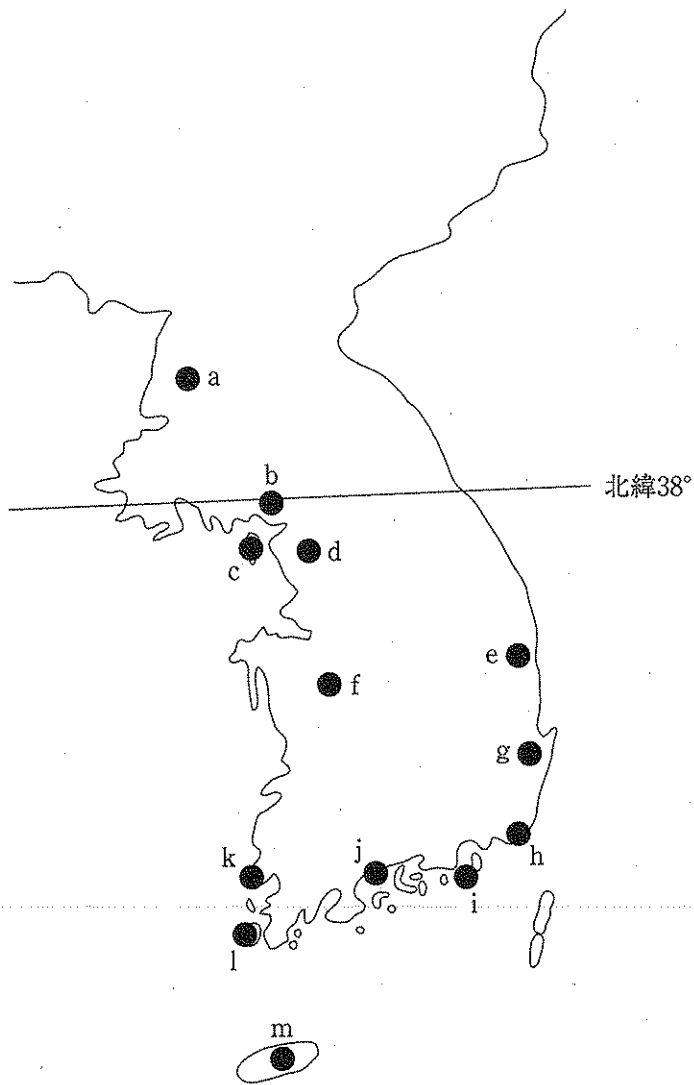
- ① a ② b ③ d ④ e ⑤ f ⑥ g

問3 下線部の江華島が存在する地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① c ② h ③ i ④ j ⑤ l ⑥ m

問4 下線部の濟州島が存在する地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① c ② i ③ j ④ k ⑤ l ⑥ m



問5 空欄(イ)にあてはまるもっとも適切な人物は誰か。次の中から1人選んで記号で答えなさい。

- ① 北条時頼 ② 北条泰時 ③ 北条貞時 ④ 北条時宗
⑤ 北条政村 ⑥ 北条長時

B 1276年(ウ)治下の元軍は南宋の都臨安に迫り、皇帝恭帝は元に降伏した。このような状況下、南宋からは多くの禅僧が日本に渡来し、日本文化に多大の影響を与えた。5年後(ウ)は、(エ)から出発した東路軍と、慶元から出発した江南軍の二手に分けて、日本再征を実施した。

問6 空欄(ウ)にあてはまるもっとも適切な人物は誰か。次の中から1人選んで記号で答えなさい。

- ① バトゥ ② フラグ ③ フビライ ④ モンケ
⑤ オゴタイ ⑥ チャガタイ

問7 下線部の禅僧の中で、北条時宗によって招かれた禅僧の名と、開山となった寺院の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 栄西・円覚寺 ② 蘭溪道隆・建長寺 ③ 無学祖元・円覚寺
④ 一山一寧・建長寺 ⑤ 蘭溪道隆・円覚寺 ⑥ 一山一寧・円覚寺

問8 空欄(エ)にあてはまるもっとも適切な港の名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 薺浦 ② 富山浦 ③ 塩浦 ④ 木浦 ⑤ 鎮浦
⑥ 合浦

問9 下線部の慶元の現在の名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 温州 ② 上海 ③ 寧波 ④ 福州 ⑤ 杭州 ⑥ 広州

問10 次の寺院の中で、いわゆる鎌倉五山に含まれるものはどれか。次の中から2つ選んで記号で答えなさい。

- ① 寿福寺 ② 天龍寺 ③ 相国寺 ④ 浄妙寺 ⑤ 万寿寺
⑥ 東福寺

C 1419年倭寇が活発化し、しきりに朝鮮半島南部を襲うと、朝鮮は倭寇の根拠地とみていた三島の1つ対馬を攻撃した。その後、復旧交渉のため、幕府は僧無涯亮倪を朝鮮の都(オ)に派遣し、実情をさぐらせた。翌年、朝鮮も回礼使として宋希環を送り、日本側の状況を把握した。

問11 下線部の三島のうち、対馬以外のものは何か。次の中から2つ選んで記号で答えなさい。

- ① 壱岐 ② 五島 ③ 隠岐 ④ 天草 ⑤ 松浦 ⑥ 来島

問12 空欄(オ)にあてはまるもっとも適切な都市の名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 開城 ② 平壤 ③ 慶州 ④ 金城 ⑤ 公州 ⑥ 漢城

問13 前問で正解となる都市が存在する地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① a ② b ③ d ④ e ⑤ f ⑥ g

問14 下線部の宋希環が日本について記録した著作は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 『海東諸国紀』 ② 『乱中日記』 ③ 『善隣国宝記』
④ 『倭寇図巻』 ⑤ 『老松堂日本行録』 ⑥ 『海游録』

問15 日朝間が一応円満な関係にもどった1443年には、朝鮮と対馬島主との間で協定が結ばれたが、この年の日本の年号と、干支の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 応永・癸亥 ② 嘉吉・癸亥 ③ 応永・己亥 ④ 嘉吉・己亥
⑤ 応永・己酉 ⑥ 嘉吉・己酉

D 1510年、朝鮮の統制強化に不満をもった三浦の恒居倭人が、対馬島主の支援を得て蜂起したが、まもなく鎮圧され、その後の日朝間の貿易は著しく衰退した。

問16 下線部の三浦に該当する港の名は何か。次の中から3つ選んで記号で答えなさい。

- ① 乃而浦 ② 富山浦 ③ 合浦 ④ 塩浦 ⑤ 鎮浦
⑥ 木浦

問17 下線部の日朝間の貿易で、日本からの輸出品に含まれないものは何か。次の中から2つ選んで記号で答えなさい。

- ① 蘇木 ② 銅 ③ 大蔵経 ④ 硫黄 ⑤ 木綿 ⑥ 胡椒

問18 16世紀半ば以降、日朝貿易が行われた港は一か所に限られた。その港の現在の名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 元山 ② 木浦 ③ 馬山 ④ 蔚山 ⑤ 群山 ⑥ 釜山

問19 前問で正解となる港が存在する地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① e ② g ③ h ④ i ⑤ j ⑥ k

E 1592年、豊臣秀吉は15万人ほどの大軍を朝鮮に送り、自らは(カ)の名護屋で指揮をとった。日本軍は上陸後、短期間のうちに平壤にまで至ったが、明から派遣された(キ)が率いる援軍や、(ク)が率いる朝鮮水軍、そして義兵の反撃と抵抗などにあって、戦局は膠着した。

問20 下線部の1592年の、日本の年号と、干支の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 文禄・壬辰 ② 天正・丁酉 ③ 慶長・丁酉 ④ 文禄・壬申
⑤ 天正・壬申 ⑥ 元和・辛酉

問21 空欄(カ)にあてはまるもっとも適切な地名は何か。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 豊前 ② 対馬 ③ 肥前 ④ 筑前 ⑤ 長門 ⑥ 尾張

問22 下線部の上陸した地点を、地図上から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① g ② h ③ i ④ j ⑤ k ⑥ l

問23 空欄(キ)と(ク)にあてはまるもっとも適切な武将の名の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① キ = 金忠善・ク = 李如松 ② キ = 沈惟敬・ク = 金忠善
③ キ = 沈惟敬・ク = 李舜臣 ④ キ = 李如松・ク = 李舜臣
⑤ キ = 李如松・ク = 沈惟敬 ⑥ キ = 金忠善・ク = 李舜臣

問24 前後7年にわたった朝鮮出兵で、朝鮮から連行された陶工によって始められた焼き物ではないものはどれか。次の中から2つ選んで記号で答えなさい。

- ① 常滑焼 ② 薩摩焼 ③ 萩焼 ④ 有田焼 ⑤ 楽焼
⑥ 伊万里焼

問25 朝鮮出兵で連行された官僚姜沆と親交して、学問的に大きな影響を受け、後に「近世朱子学の祖」とされる人物は誰か。次の中から1人選んで記号で答えなさい。

- ① 谷時中 ② 雨森芳洲 ③ 藤原惺窩 ④ 林羅山
⑤ 南村梅軒 ⑥ 木下順庵

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

18世紀の後半になると、度重なる飢饉により農村は荒廃し、百姓一揆が頻発するが、江戸・大阪などの都市でも激しい打ちこわしが発生した。他方、列強による圧力も強まり、そうした内憂外患の危機的状況を打開すべく、多くの人々によって海防・国富策が論じられるようになった。

ロシアは17世紀ごろからシベリアに進出し、17世紀末にはカムチャツカまで領土を広げた。18世紀半ばにはアラスカや千島列島に進出し、ロシア船が日本近海に出没するようになった。こうしたロシアの進出に対して、(あ)は『(ア)』を著して蝦夷地開拓と対ロシア貿易を説き、老中(い)に献上した。(い)はこれに刺激を受けて、1785年に(う)らに蝦夷地の調査を命じ、その開発やロシア人との交易の可能性を模索した。

(a)年には、エカチェリーナ2世の命を受けた(え)が漂流民(お)らを伴って根室に来航し、通商を求めるが、幕府は長崎入港の許可証を与えて退去させた。(b)年には(か)が長崎に来航し、通商を要求するが、幕府がこれを拒否したため、蝦夷地でロシア艦船との紛争が生じるようになり、(c)年にはロシア軍艦艦長(き)が国後島で捕らえられる事件も起きた。なお、(お)の見聞は(く)によって『(イ)』としてまとめられ、最新のロシア情報を日本にもたらしたが、また、(き)も『(ウ)』を著し、日本に対する鋭い観察を行っている。

(け)は『海国兵談』を著して、ロシアの南下を警告し、海防の強化を訴えるが、老中(こ)は人心を惑わしたとしてこれを処罰し、諸藩には江戸湾・蝦夷

地の防備を命じた。そして、1798年には(さ)・(う)らを東蝦夷地の探査に派遣し、1799年に東蝦夷地、1807年に松前藩領・西蝦夷地を幕府直轄地とし、松前奉行の支配下においた。

この時期には、富国のために外国貿易の振興を唱える者もあらわれるようになる。(し)は『西域物語』や『(エ)』を著し、西洋との通商交易や蝦夷地開発による国富論を説いた。さらに、(す)は『(オ)』で中央集権的な国家構想と海外経略策を示し、『(カ)』や『農政本論』において重商主義的主張を行い、産業の国営化と貿易の振興による経世国富論を展開した。

問1 文中の空欄(a)～(c)にあてはまる数字を次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 1778 ② 1792 ③ 1804 ④ 1808 ⑤ 1810 ⑥ 1811
⑦ 1813 ⑧ 1818 ⑨ 1825

問2 文中の空欄(あ)～(す)にあてはまるもっとも適当な人物名を次の中から1人ずつ選びなさい。

- ① 新井白石 ② 伊能忠敬 ③ 大槻玄沢
④ 大原左金吾 ⑤ 海保青陵 ⑥ 桂川甫周
⑦ 工藤平助 ⑧ 近藤重蔵 ⑨ ゴードン
⑩ グローウニン ⑪ 佐久間象山 ⑫ 佐藤信淵
⑬ シーボルト ⑭ シドッチ ⑮ ジョン万次郎
⑯ 大黒屋光太夫 ⑰ 高田屋嘉兵衛 ⑱ 高野長英
⑲ 太宰春台 ⑳ 田沼意次 ㉑ 津太夫
㉒ 西川如見 ㉓ 林子平 ㉔ ビッドル
㉕ プチャーチン ㉖ 本多利明 ㉗ 前野良沢
㉘ 松平定信 ㉙ 間宮林蔵 ㉚ 水野忠成
㉛ 水野忠邦 ㉜ 箕作阮甫 ㉝ 最上徳内
㉞ ラクスマン ㉟ レザノフ ㊱ 渡辺崋山

問3 文中の空欄(ア)～(カ)にあてはまるもっとも適当な著作名を次の中から1つずつ選びなさい。

- | | | | |
|----------|----------|---------|--------|
| ① 赤蝦夷風説考 | ② 宇内混同秘策 | ③ 和蘭通舶 | |
| ④ 華夷通商考 | ⑤ 環海異聞 | ⑥ 稽古談 | |
| ⑦ 経済問答秘録 | ⑧ 経済要録 | ⑨ 経済録 | ⑩ 経世秘策 |
| ⑪ 三国通覧図説 | ⑫ 自然真営道 | ⑬ 日本 | ⑭ 日本紀行 |
| ⑮ 日本幽囚記 | ⑯ 北槎聞略 | ⑰ 北地危言 | |
| ⑱ 戊戌夢物語 | ⑲ 魯西亜志 | ⑳ 魯西亜本紀 | |

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

いわゆる大正デモクラシーとは、大正年間にみられた自由主義的・民主主義的風潮のことをいい、それは、護憲運動や社会・労働運動などの進展に大きく影響することになった。その背景には、^(a)第一次世界大戦が民主的国家体制の米英の勝利に終わり、ロシア、ドイツそれぞれに革命が起き、帝政が崩壊するといった海外の事情もあるが、それを学問的・思想的に支えたのは〔A〕と〔B〕である。ふたりはくしくも、東京帝国大学で教鞭を執るとともに、その学識をもって積極的^(b)にみずからの見解を説き続けた。その立場や経歴のゆえか、上からの民主化論を織り込んでいた点でそれなりの限界はあったものの、ときの権力に屈せず、時流にも流されず、みずからの信念を貫こうとする姿勢にはいささかの揺るぎもみられなかった。

〔A〕は、1873(明治6)年、兵庫県の、祖父の代から医業を営む家に生まれ、小学校を飛び級で卒業するなど、神童として知られた。東京帝国大学法科大学を卒業して内務省に入ったものの、これを2年で辞め、1899(明治32)年に大学に戻った。そして、1912(明治45)年、『憲法講話』を刊行し、(ア)や(イ)を唱え、同僚の(ウ)論者である(エ)と対立し、この論争に勝利した。その結果、学界では(ア)が支持され、官界にも影響を及ぼすことになるが、実は文部省配下の中等教育などにおいては(ウ)が影響力を保ち続けた。

それはともかく、その後の〔 A 〕は、〔 B 〕の（オ）によって大正デモクラシーが本格化すると、経済的格差の是正を視野に入れつつ、（カ）制の導入や政党政治の実現に貢献した。そして、1931（昭和6）年、関東軍らによる（キ）を端緒とする（ク）などが生起すると、軍部批判を強め、右翼から攻撃を受け始める。1932（昭和7）年に貴族院の勅選議員になっていたが、1935（昭和10）年、陸軍出身の貴族院議員である（ケ）が（ア）は反国体的であると批判したことをきっかけに政治問題化し、不敬罪で告発された。そして、不敬罪については不起訴になったものの、その著書は発禁処分を受け、結局は議員辞職を余儀なくされた。この間、（コ）内閣は2度にわたって（サ）を発することで（ア）を公的に否定したため、〔 A 〕はその政治的、社会的地位を失うに至った。

1936（昭和11）年には、（シ）の一部青年将校によって引き起こされた（ス）の5日前に、〔 A 〕も右翼の青年に発砲され、負傷した。それでも戦中を生き抜き、1946（昭和21）年には枢密院顧問官として日本国憲法の審議にかかわった。〔 A 〕の立場は、みづからが説く立憲主義的な解釈・運用によれば大日本帝国憲法の改正は不要であるとするものであったが、日本国憲法の施行後1年ほどで病のため亡くなった。

〔 B 〕は、1878（明治11）年、宮城県（d）の裕福な商家に生まれた。父が自由民権運動（d）に関与していたため、その政治的雰囲気（d）のなかで育ったが、小・中学校を首席で卒業するほど明敏な子であった。第二高等学校時代に、アメリカ人女性宣教師の影響を受け、キリスト教に入信した。1904（明治37）年、東京帝国大学法科大学を卒業したのち中国に渡り、袁世凱家の家庭教師をしたり、行政官・司法官の育成のための学校で教師を務めたりするなどの苦勞を重ね、1909（明治42）年に東京帝国大学の助教授に就任した。

3年半の留学を経た1916（大正5）年、論文、「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表し、（オ）を主唱した。それは、民衆の福利のため、民衆の意向に基づいて政治がおこなわれるべきであることを主張するもので、ここに、法律論を通じて民主化しようとした〔 A 〕の影響をみてとれよう。〔 B 〕は、1918（大正7）年には（セ）を結成するとともに、学生の思想

運動団体である(ソ)の結成にも尽力したほか、東京帝国大学学生基督教青年会理事長として、貧しい人々のための診療所や保育所の開設などの社会事業もおこなった。大変あたたかで、親切な人柄は、貧窮した中国人留学生の支援のため東京帝国大学教授から高給の東京朝日新聞記者に転じたことにもよくあらわれている。

(カ)法が成立した翌年には、合法的な無産政党である(タ)が組織されたが、〔B〕は、そこから脱退した右派勢力による(チ)の結成にかかわった。さらに、(カ)が実施された1928(昭和3)年以降は、汚職、金権選挙を取り上げて政党や民衆に対する批判を始めた。そして、1930年代に軍部が台頭し、テロが頻発し、議会政治が危機に瀕する事態を迎えると、〔A〕と同様に、軍部批判を強め、議会や政党擁護を訴えた。そうした活動が続ける最中の1933(昭和8)年、病死した。

問1 文中の空欄(ア)～(チ)に入るべき人名または語句を次の語群から選びなさい。

〔語群〕

- | | | | |
|----------|---------|----------|--------|
| ① 荒木貞夫 | ② 上杉慎吉 | ③ 岡田啓介 | ④ 菊池武夫 |
| ⑤ 西園寺公望 | ⑥ 斎藤隆夫 | ⑦ 佐々木惣一 | ⑧ 寺内正毅 |
| ⑨ 広田弘毅 | ⑩ 穂積重遠 | ⑪ 山本権兵衛 | |
| ⑫ 若槻礼次郎 | ⑬ 皇道派 | ⑭ 五・一五事件 | |
| ⑮ 国体明徴声明 | ⑯ 社会大衆党 | ⑰ 社会民衆党 | ⑱ 新人会 |
| ⑲ 政党内閣論 | ⑳ 滝川事件 | ㉑ 天皇機関説 | |
| ㉒ 天皇主権説 | ㉓ 天皇親政 | ㉔ 二・二六事件 | |
| ㉕ 日本労農党 | ㉖ 農民労働党 | ㉗ 平等選挙 | ㉘ 普通選挙 |
| ㉙ 平民主義 | ㉚ 北支事変 | ㉛ 満州事変 | ㉜ 民本主義 |
| ㉝ 柳条湖事件 | ㉞ 黎明会 | ㉟ 盧溝橋事件 | |
| ㊱ 労働農民党 | | | |

問2 下線部(a)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。1つ選びなさい。

- ① 第一次護憲運動のきっかけは、辛亥革命の影響下にある台湾に派遣する2個師団の増設を要求していた上原勇作陸相が単独で辞職したことにある。
- ② 第一次護憲運動の展開を受けて、ときの内閣総理大臣であった桂太郎は、みずからが結党式を挙げて結成した立憲同志会をもって対抗した。
- ③ 第二次護憲運動は、清浦奎吾の超然内閣に反対した憲政会、立憲政友会、革新倶楽部の3党によって展開され、護憲三派内閣の成立をもたらした。
- ④ 第二次護憲運動ののち、第1次加藤高明内閣の成立から斎藤実内閣の崩壊までの8年間、立憲政友会、憲政会の2大政党が交代で内閣を組織した。

問3 下線部(b)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。1つ選びなさい。

- ① この大学は、もともと徳川幕府時代に開設された昌平坂学問所、明治維新後に開設された開成所および医学所を起源にもっている。
- ② この大学の名称は、唯一の官立大学であった東京大学が帝国大学令により帝国大学に改組され、その大学名がさらに改められたことによる。
- ③ 帝国大学は、この大学のほか、京都、東北、九州など立て続けに設立され、日露戦争が終わる頃には9つを数えるまでになった。
- ④ 総合大学にあたる帝国大学以外にも、森有礼文部大臣のもとで大学令が制定され、単科大学や私立大学の設立が認められた。

問4 下線部(c)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。1つ選びなさい。

- ① この機関は、大日本帝国憲法の制定にともない、国家の枢要な機関として設置され、その初代議長には伊藤博文が就任した。
- ② この機関は、重要な国務について内閣の諮問に応じていたため、内閣の施策を左右するほどの存在であった。
- ③ この機関は、鈴木商店への融資で苦境にあった台湾銀行を緊急勅令で救済することを了承せず、これにより、ときの内閣が総辞職するに至った。
- ④ この機関は、日本国憲法の施行にともない、元老院や貴族院とともに廃止されることになった。

問5 下線部(d)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。1つ選びなさい。

- ① この運動は、文明開化期にみられた啓蒙主義や西洋思想導入の動きを受け継ぐものであり、それにかかわってきた論者は、思想的に対立する国権論を批判し続けた。
- ② この運動の口火となったのは、板垣退助らによる民撰議院設立の建白書の提出であったが、その作成にはアメリカ帰りの知識人の存在が大きかった。
- ③ この運動を受けて、政府は、漸次立憲政体樹立の詔を発する一方で、その翌年には、讒謗律や新聞紙条例を制定して言論の取り締まりを厳しくした。
- ④ この運動の代表的な政社に立志社があるが、のちに結成される国会開設運動の全国的団体は、この政社の流れを汲む愛国社を改称したものである。

